

2

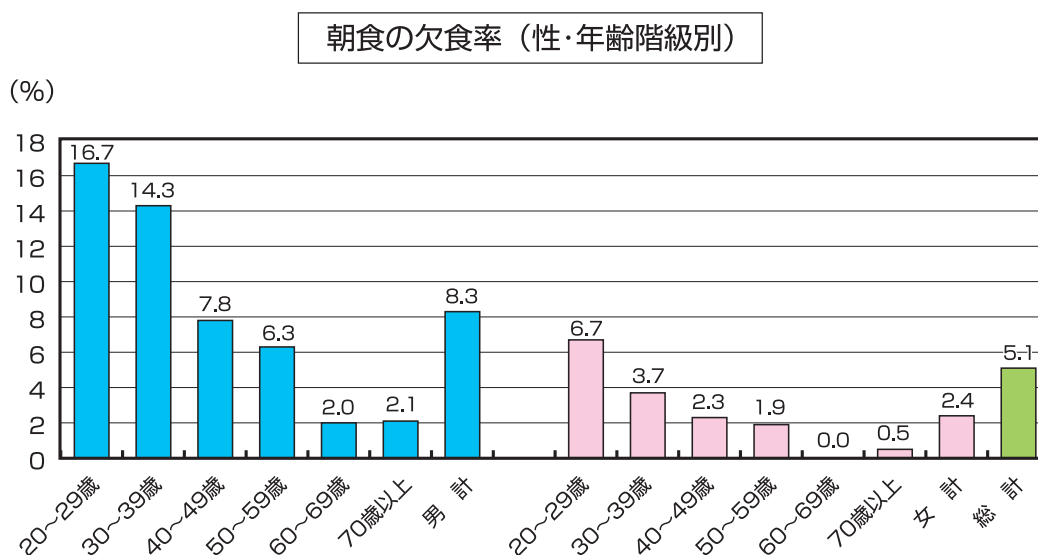
食を巡る現状と課題

(1) 食生活と健康、生活習慣病

● 成人の朝食欠食率の割合

- ・ 朝食の欠食率は、20歳代男性で16.7%と最も多く、次いで30歳代男性が14.3%となっています。女性の方が欠食率は低くなっています。

◆ 成人の朝食欠食率(和歌山県)



(資料：平成17年県民健康栄養調査)

「食育」とは

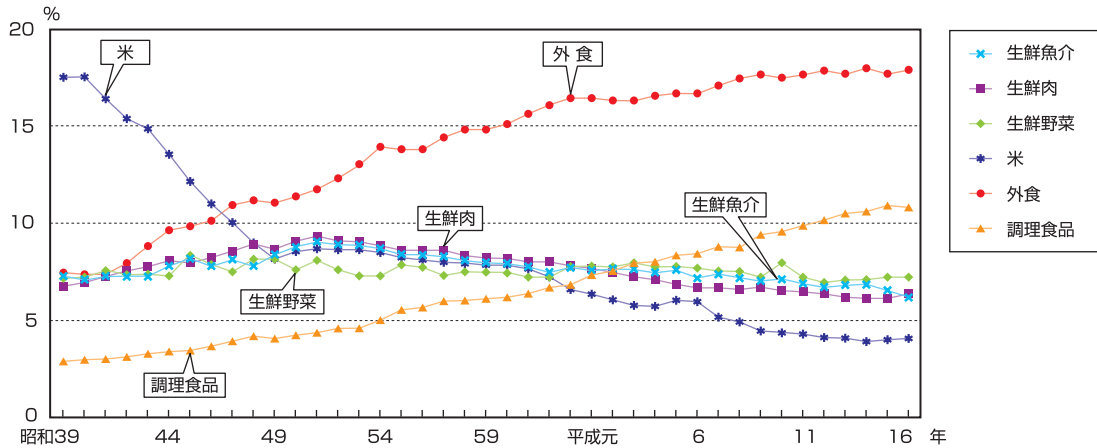
食育という言葉は、明治31年、石塚左玄著「通俗食物養生法」の中で使われており、「学童を養育する人々は、体育、智育、才育はすなわち食育にあると考えるべきである」と食育の重要性を述べています。

食育基本法では、「生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもので、様々な経験を通じて、『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる」とこととされています。

●食の外部化・簡便化の進展

- ・全体として、外食、中食（調理食品）は増加傾向にあり、家庭での食材としての肉、魚介、野菜の購入は減少傾向となっています。
- ・家族揃っての外食は家族団らんの場として役立っている一方、外食の頻度が高いほど、野菜の摂取量が少なくなっています。

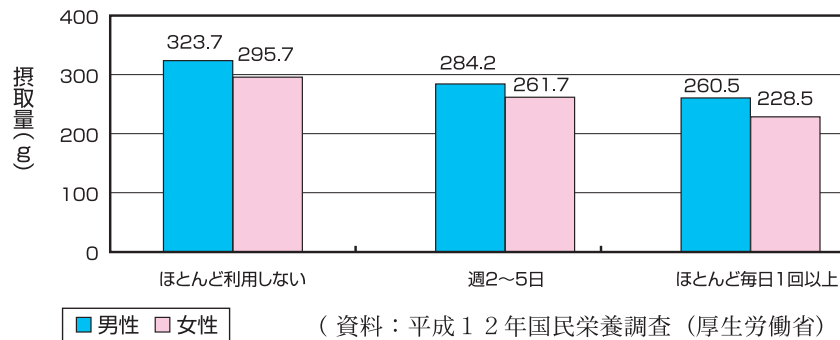
◆食料支出額に占める品目・形態別の割合の推移（全国の状況）



（資料：総務省「家計調査年報」（二人以上の世帯（農林漁家世帯を除く））から作成）

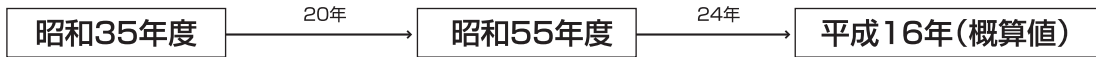
注：「調理食品」は、工業的加工以外の一般的に家庭や飲食店で行うような調理の全部又は一部を行った食品。冷凍調理食品、レトルトパウチ食品及び複数素材を調理したものも含む。弁当、おにぎり、調理パン、中華まんじゅう、レトルトパウチ食品、各種惣菜など。カップめん、即席めんは含まない。

◆外食の頻度別にみた野菜の摂取量（1日当たり）（全国の状況）

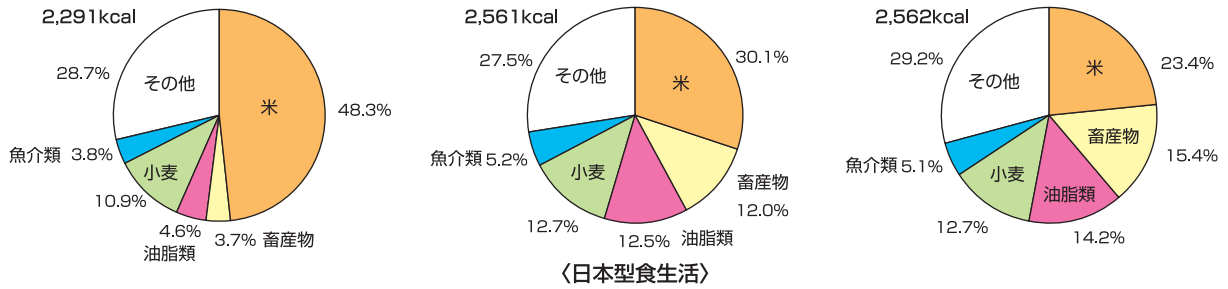


●栄養バランスの崩れ

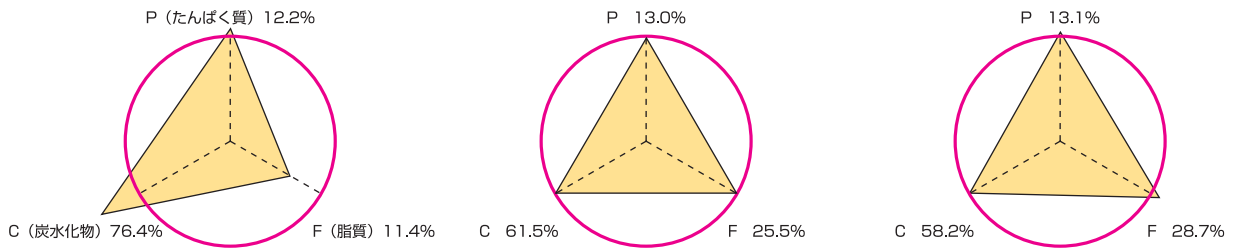
- ・昭和30年代中ごろでは、米などからの炭水化物の摂取量が高く、脂質の摂取量が低くなっていました。
- ・昭和50年代中ごろには、たんぱく質、脂質、炭水化物のエネルギー比率がバランスよく、主食である米を中心に水産物、畜産物、野菜等多様な副食から構成される栄養バランスに優れた「日本型食生活」が形成されました。
- ・現在では、米の消費減少により炭水化物の比率が減少し、畜産物、油脂類の消費増加に伴い、脂質の割合が増加しており、栄養のバランスが崩れていることがうかがえます。



●食料消費者割合の変化(1人1日当たり:供給熱量ベース) (全国の状況)



●栄養バランスの変化

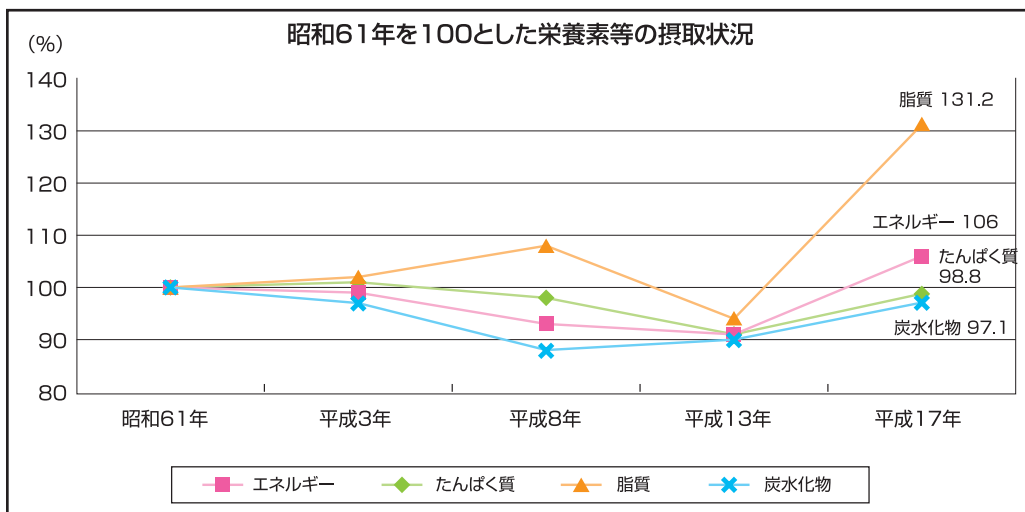


(資料：農林水産省「食料需給表」)

注:適正比率は、食料・農業・農村基本計画における平成22年度の目標値 P(たんぱく質) 13% F(脂質) 27% C(炭水化物) 60%

●栄養素等の摂取状況

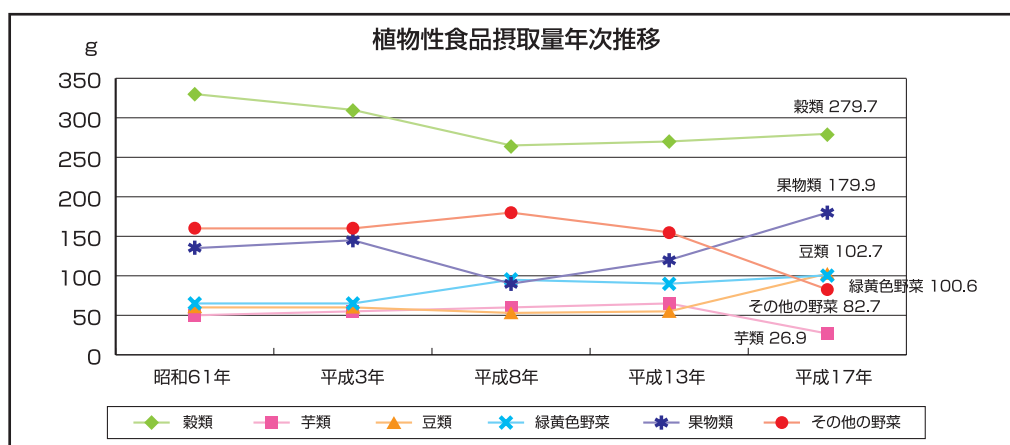
- ・ 県民の1人1日当たりの栄養素等の摂取量は、たんぱく質、炭水化物についてはほぼ横ばい傾向にありますが、脂質については平成17年調査では増加しています。



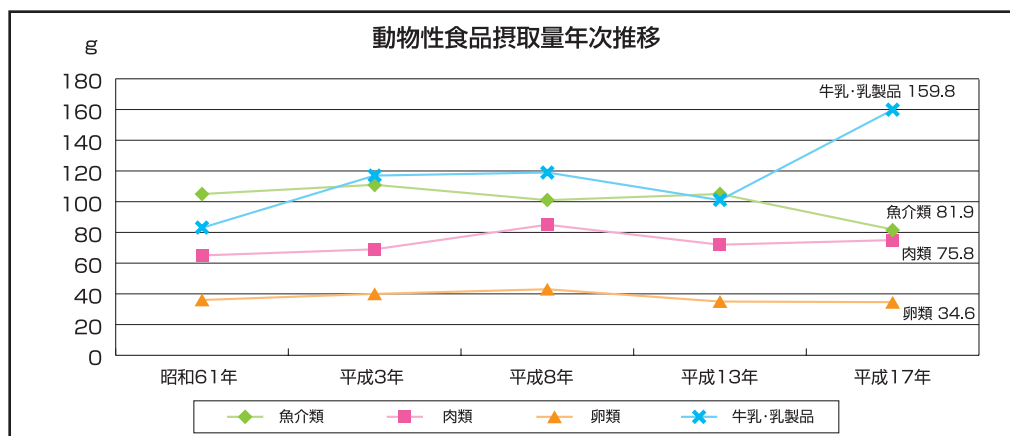
(資料：平成17年県民健康栄養調査)

●食品の摂取状況

- ・県民の食品摂取状況は、昭和61年と平成17年を比較すると、穀類、魚介類、野菜類、いも類が減少傾向、牛乳・乳製品、果実類は増加傾向にあり、その他の食品は横ばい傾向にあります。
- ・野菜は183.3g（緑黄色野菜100.6g その他の野菜82.7g）で、国・県が目標としている350gに足りていません。
- ・また果物類も179.9gと増加傾向にありますが、目標としている200gに足りていません。



(資料：平成17年県民健康栄養調査)

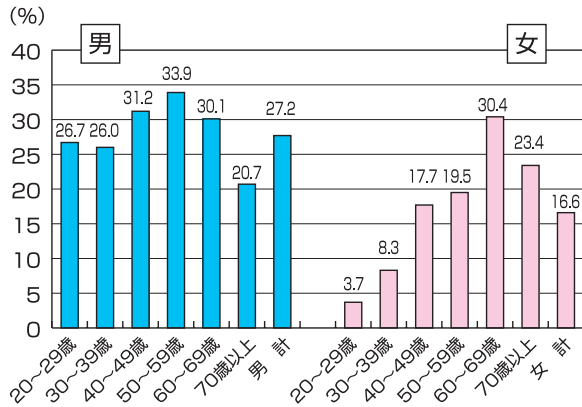


(資料：平成17年県民健康栄養調査)

●身体状況

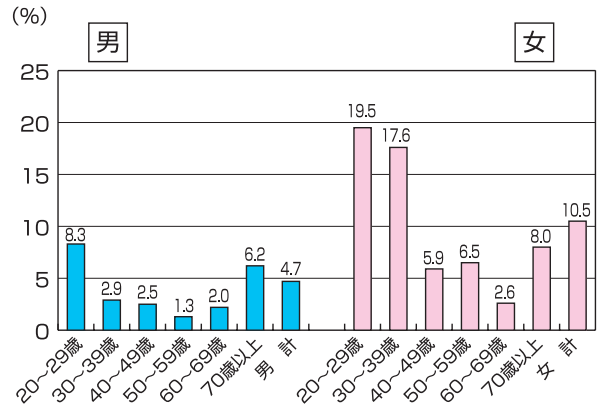
- ・肥満者の割合は、男性で40～60歳代、女性では60歳代に最も多くなっています。
- ・男性では、いずれの年代でも、5人に1人が肥満傾向にあります。
- ・女性では、年齢が上がるとともに肥満者の割合が増え、60歳代では3人に1人が肥満者となっています。
- ・女性の20、30歳代ではやせの者の割合が高く、男女とも70歳以上ではやせの者の割合が高くなっています。

肥満者(BMI \geq 25)の割合(性・年齢階級別)



(平成17年 県民健康栄養調査)

やせの者(BMI<18.5)の割合(性・年齢階級別)



(平成17年 県民健康栄養調査)

※「健康日本21」(厚生労働省)の糖尿病の指標において、BMI \geq 25の割合が男性(20~60歳)15%以下、女性(40~60歳)20%以下とされています。

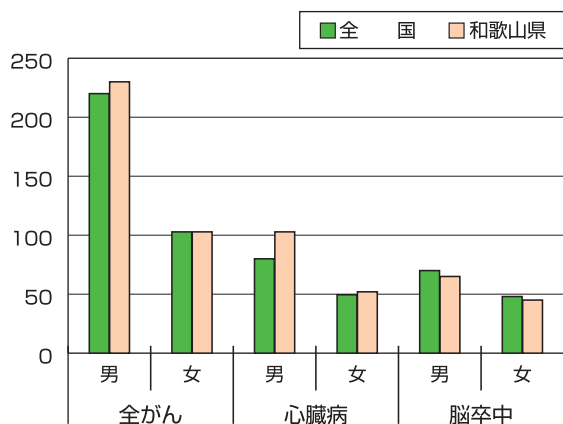
●生活習慣病等の疾病の状況(平成12年度人口10万対年齢調整死亡率)

- ・3大生活習慣病といわれる「がん」「心臓病」「脳卒中」が原因で死亡する人が日本人では約6割を占めています。本県は、全国の中でも「がん」「心臓病」による死亡率が高く、特に「がん」では「胃がん」「肺がん」による死亡率が高くなっています。
- ・生活習慣病は、子どもの頃からの生活習慣の積み重ねが発症や病状の進行に深く関与していることから、年齢を超えて毎日の生活習慣を改善し、疾病の発症や進行を防ぐことが重要です。

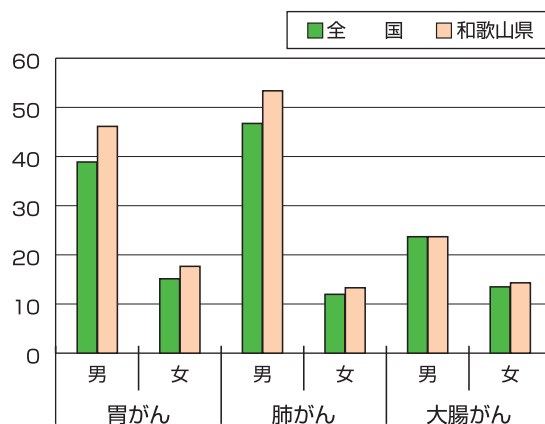
	全死亡		生活習慣病の疾病死亡率					
	男	女	全がん		心臓病		脳卒中	
	男	女	男	女	男	女	男	女
全 国	634.2	623.9	214.0	103.5	85.8	48.5	74.2	45.7
和歌山県	680.8	333.3	225.9	103.8	101.8	53.6	69.2	42.0
ワースト順位	4	12	8	16	2	5	34	37

	がんの部位別死亡率					
	胃がん		肺がん		大腸がん	
	男	女	男	女	男	女
全 国	39.1	15.3	46.3	12.3	23.7	13.6
和歌山県	45.7	18.0	53.4	13.3	23.7	14.0
ワースト順位	7	6	7	8	15	16

生活習慣病の疾病死亡率
(平成12年度人口10万対年齢調整死亡率)



がんの部位別死亡率
(平成12年度人口10万対年齢調整死亡率)



(資料：人口動態統計)

【年齢調整死亡率】

都道府県等のように年齢構成の著しく異なる人口集団の死亡状況を一度に比較する時は、単一の数値でないと比較が困難です。このような場合、年齢構成の差を取り除いた死亡率（年齢調整死亡率）が用いられます。

年齢調整死亡率 = (各都道府県別の年齢階級別死亡率 × 全国の年齢階級別人口) の総和 / 全国の総人口 × 100,000

● 平均寿命の推移

- ・ 和歌山県の平均寿命は、男女とも全国平均を下回っています。

平均寿命の推移 (和歌山県・全国)

単位：歳

		1990年	1995年	2000年
和歌山県	男	75.23(44)	76.07(44)	77.01(41)
	女	81.70(40)	82.71(44)	84.23(41)
全 国	男	76.04	76.70	77.71
	女	82.07	83.22	84.62

() 内は全国順位

(資料：都道府県別生命表(厚生労働省)2000年)

「日本型食生活」とは

日本人の食生活は、古来より「ごはん」を主食として、野菜、魚など国内で生産、捕獲される素材を用い、しょうゆ、みそ、だしなどにより調理、味付けされた副食を組み合わせるパターンが一般的なものでした。

その後、このようなパターンに畜産物や油脂類の消費も増え、その結果、昭和50年中頃には、主食である米を中心として畜産物や果実などがバランスよく加わった、健康的で豊かな「日本型食生活」が実現しました。

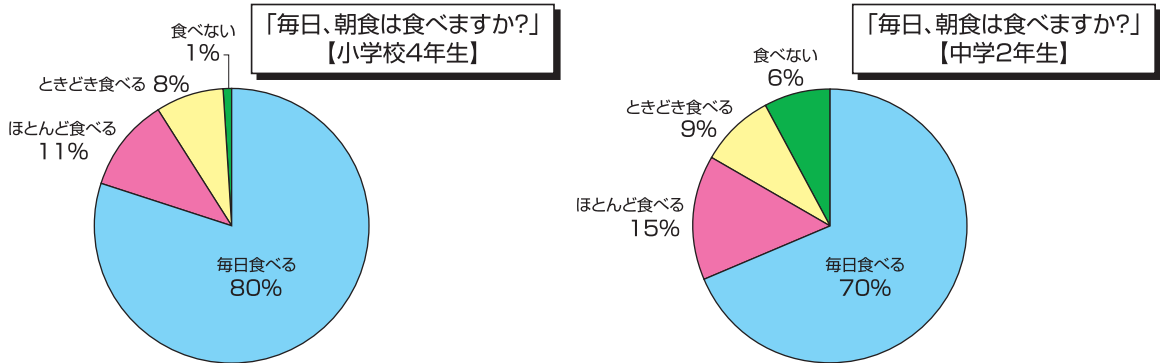
しかし、近年では、米の消費が減少する一方、脂質の消費が増加し、栄養バランスの崩れが見られることから、「日本型食生活」の良さについて今一度見直そうとの動きがあります。

(2) 児童・生徒の食生活

●児童・生徒の朝食欠食率

- ・児童生徒の朝食の欠食状況は、「ときどき食べる」「食べない」と回答した割合が、小学4年生で8.9%、中学2年生で15.1%となっています。

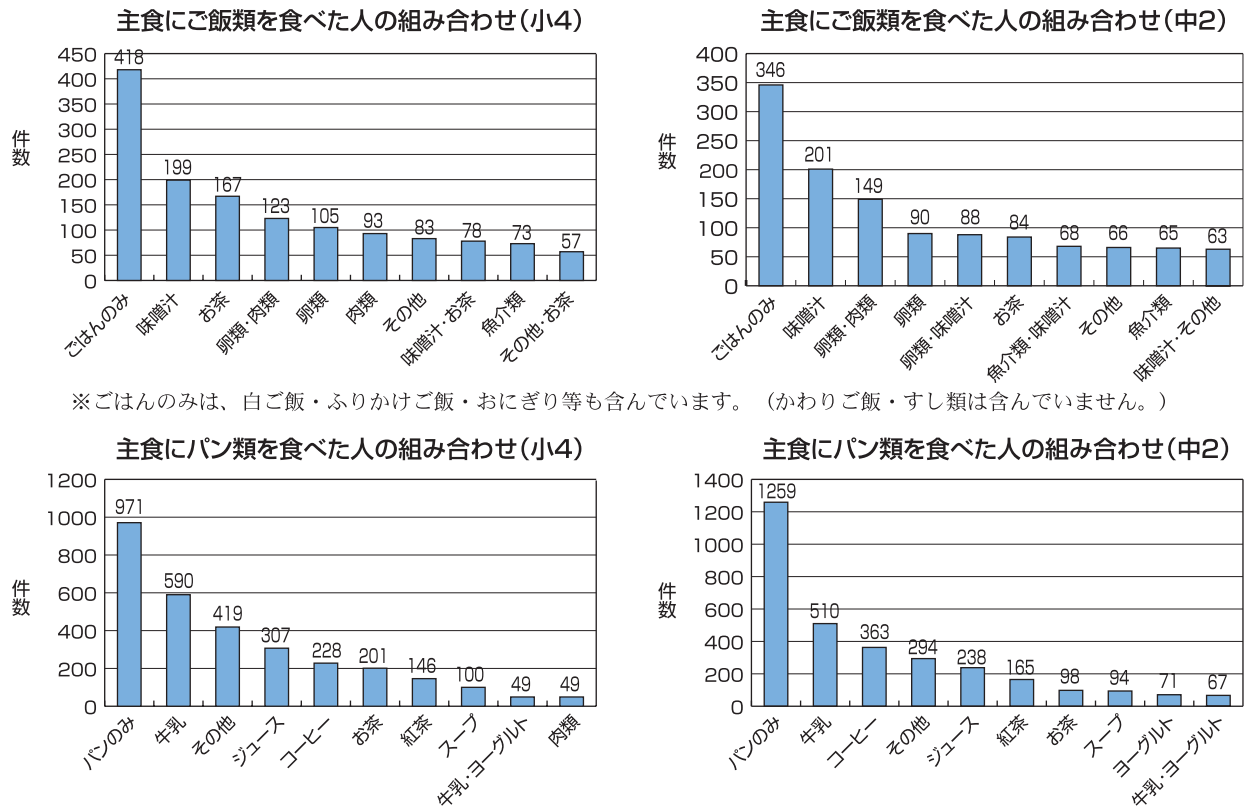
◇小学生、中学生の欠食率



(資料：平成16年度和歌山県小・中学校食生活に関するアンケート報告書)

●小学生、中学生の朝食内容

- ・小学生、中学生とも、朝食を食べている子どもでは、ご飯、パンのいずれも主食のみを食べている数が最も多くなっています。



※ごはんのみは、白ご飯・ふりかけご飯・おにぎり等も含んでいます。(かわりご飯・すし類は含んでいません。)

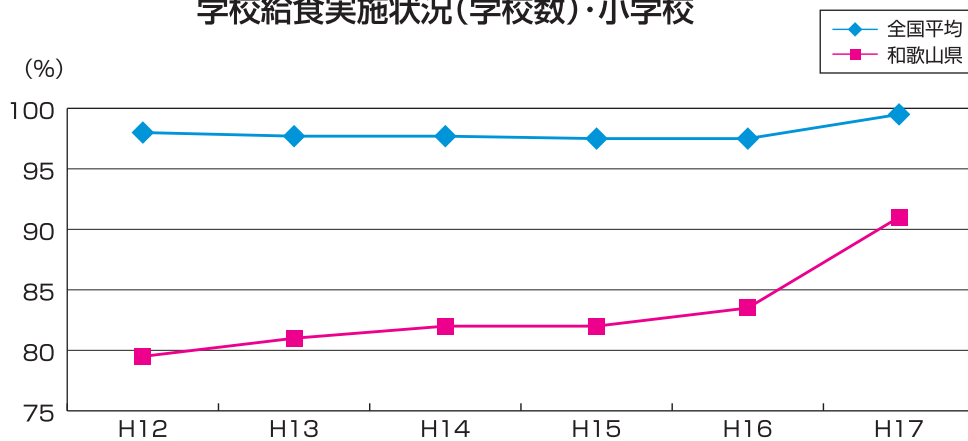
※パンのみは、菓子パン・食パンにバターやジャムを塗ったものを含んでいます。(調理パンは含んでいません。)

(資料：平成16年度和歌山県小・中学校食生活に関するアンケート報告書)

●学校給食実施状況（学校数）

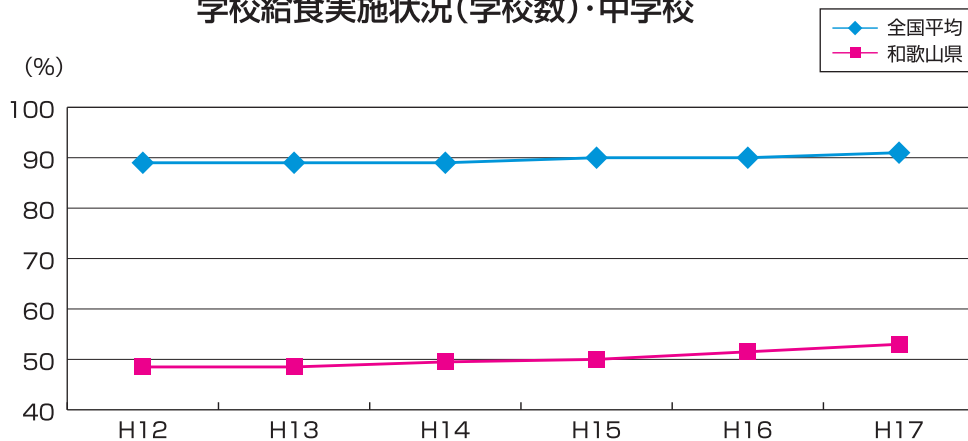
- ・小学校、中学校ともに、給食の実施校率（学校数の割合）は全国平均に比べ低い状況にあります。

学校給食実施状況(学校数)・小学校



	H12	H13	H14	H15	H16	H17
全国平均	98.1	98.0	97.9	97.8	97.8	99.7
和歌山県	79.1	80.8	82.1	82.1	83.2	90.3

学校給食実施状況(学校数)・中学校



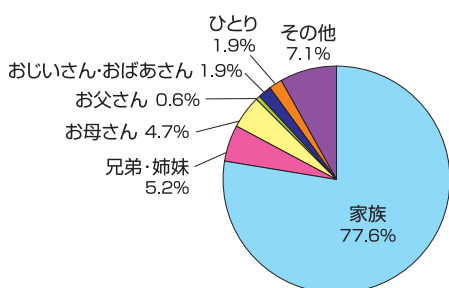
	H12	H13	H14	H15	H16	H17
全国平均	89.2	89.3	89.5	90.0	90.1	90.7
和歌山県	48.6	48.6	49.3	50.3	50.7	52.2

(資料：学校給食基本調査（文部科学省）)

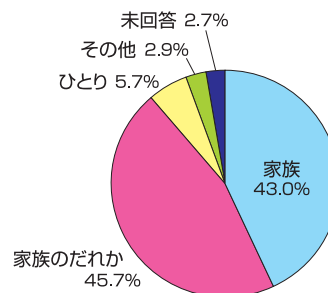
●子どもの食事環境

- ・「夕食はだれと食べていますか」の問いに対して「ひとり」と回答した生徒の率が、小学生では1.9%、中学生では5.7%と、年齢が高くなるほど孤食が増える傾向にあります。
- ・小学生の約7割、中学生の約6割が外食を「よくする」「ときどきする」と答えており、その内容は、「寿司」「ラーメン」「焼肉」を食べる割合が多い傾向にあります。

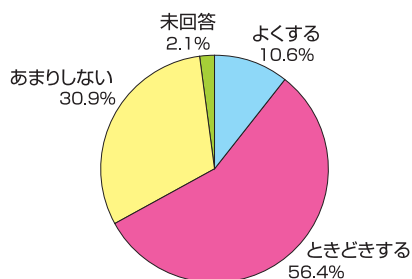
夕食はだれと食べていますか(小4)



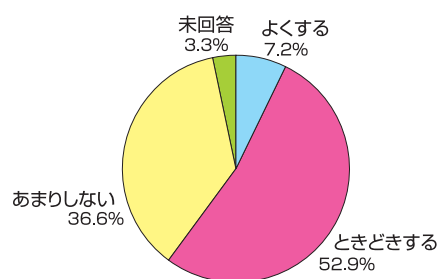
夕食はだれと食べていますか(中2)



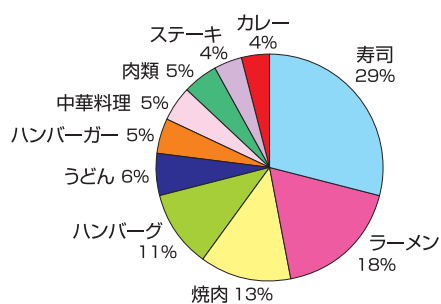
外食をしますか(小4)



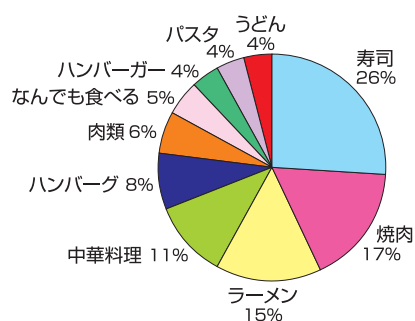
外食をしますか(中2)



外食ではどんなものを食べますか(小4)



外食ではどんなものを食べますか(中2)

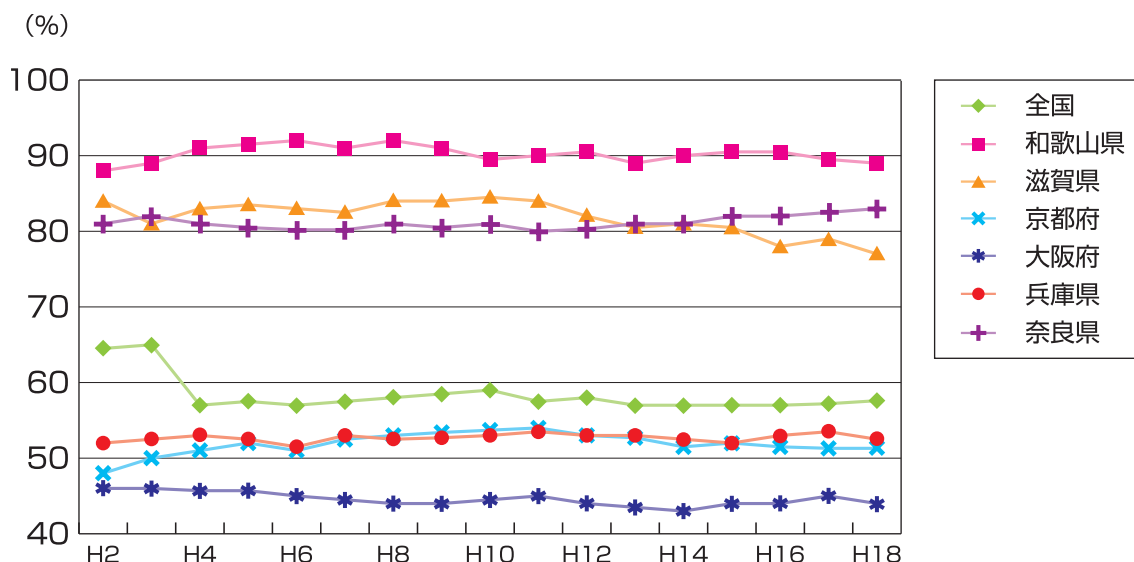


(資料：平成16年度和歌山県小・中学校食生活に関するアンケート報告書)

● 県外大学・短大への進学割合

- ・ 本県は、県外の大学・短大への進学率が高くなっています。（全国1位）
- ・ したがって、高校を卒業するまでに、正しい食習慣を身につける必要があります。

県外大学・短大への進学者割合



（資料：学校基本調査報告書（文部科学省））

「食育月間、食育の日」

国において策定された「食育推進基本計画」（平成18年3月策定）の中で、国や地方公共団体、教育・保育、農林漁業、食品産業等の関係者やその団体、消費者団体やボランティア団体等様々な関係者が共通認識を持ち、一体的に国民に強く訴えかけていくことが必要であり、全国的な食育運動が展開されるよう、毎年6月を「食育月間」と定め、さらにその運動を継続的に展開し、一層の定着を図るため、毎月19日を「食育の日」と定められています。

本県では、運動の継続性を高めるため、国の食育月間と併せ、毎年10月を「和歌山県食育推進月間」と定め、「食べることは学ぶこと、考えよう皆と私の食の未来！」をスローガンに運動を展開していくこととしています。

(3) 農水産物の生産状況

●農産物の生産状況

- 梅、柿、みかんなど果樹を中心に全国シェアの上位品目が多数あります。
- 本県の農業産出額の約6割は果樹で占められています。
- 果樹全体の産出額は、674億円で全国第2位となっています。

単位：千万円、億円、%

平成16年 農作物名	産出額		全 国 シ ェ ア	1位	2位	3位	4位	5位
	和歌山県 千万円	全 国 億円						
う め	2,147	332	64.8	和歌山	群 馬	福 井	奈 良	福 岡
か き	869	417	21.0	和歌山	奈 良	福 岡	岐 阜	新 潟
はっさく	329	56	58.9	和歌山	広 島	愛 媛	徳 島	香 川
さやえんどう	255	174	14.9	和歌山	鹿児島	愛 知	北海道	福 島
みかん	2,274	1,526	14.9	静 岡	和歌山	愛 媛	熊 本	佐 賀
いよかん	55	136	4.4	愛 媛	和歌山	山 口	佐 賀	広 島
すもも	96	77	13.0	山 梨	和歌山	長 野	福 島	山 形
いちじく	77	80	9.6	愛 知	和歌山	福 岡	兵 庫	広 島
ししとう	44	73	6.0	高 知	千 葉	和歌山	徳 島	宮 崎
キウイフルーツ	50	76	6.6	愛 媛	福 岡	静 岡	和歌山	神奈川
も も	411	500	8.2	山 梨	福 島	岡 山	長 野	和歌山

(資料：生産農業所得統計（農林水産省）)

●水産物の生産状況

- むろあじ、たちうお、しらすなど全国有数の水揚げがあります。
- 瀬戸内海から太平洋までを含む県内各地で多種多様な魚介類が漁獲されています。
- 全国有数の生鮮マグロの水揚げや捕鯨発祥の地としての食文化をもっています。

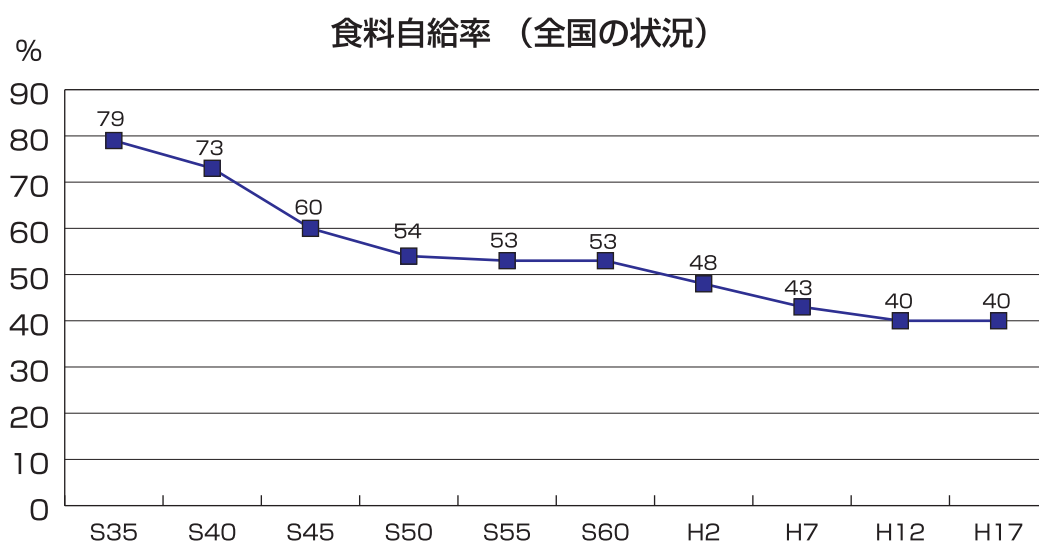
単位：トン

平成16年 区 分	漁獲量等		全 国 シ ェ ア	1位	2位	3位	4位	5位	6位
	和歌山県	全 国							
むろあじ類	3,835	26,181	14.6	長 崎	和歌山	宮 崎	鹿児島	高 知	三 重
たちうお	2,329	16,439	14.2	愛 媛	大 分	和歌山	長 崎	広 島	徳 島
しらす	3,716	47,325	7.8	兵 庫	鹿児島	愛 媛	和歌山	大 阪	徳 島
いせえび	128	1,271	10.1	千 葉	三 重	静 岡	和歌山	宮 崎	長 崎
は も	189	3,070	6.2	兵 庫	山 口	徳 島	愛 媛	和歌山	宮 崎
まいわし	2,081	50,153	4.1	茨 城	千 葉	静 岡	三 重	高 知	和歌山

(資料：農林水産統計年報（農林水産省）)

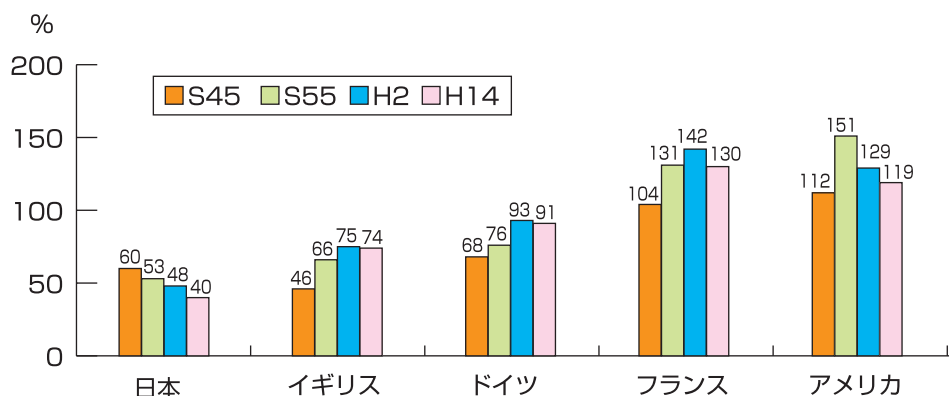
●食料自給率（カロリーベース）

- ・我が国の食料自給率は、昭和40年度の73%から50年度には54%へと短期間に大きく低下しました。その後、ほぼ横ばいで推移しましたが、昭和60年度以降再び低下し、平成10年度には40%となり、それ以降は横ばいで推移しています。
- ・現在の食料自給率については主要先進国の中では低位な状況にあります。このため、地産地消の展開や国産農産物の消費拡大など消費面の活動と、需要に即した生産や農業と食品産業との連携など生産面の活動との両面において、食料自給率向上を図る取組を強める必要があります。



（資料：農林水産省「食料需給表」）

主要先進国の食料自給率（カロリーベース）



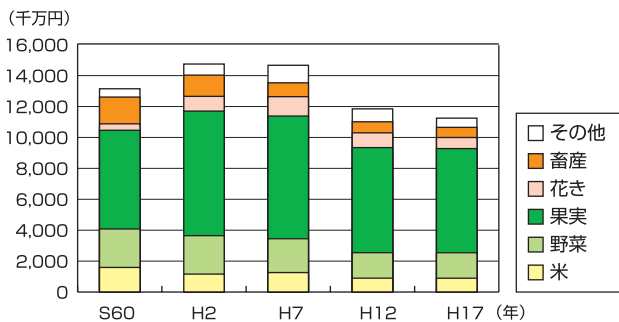
（資料：農林水産省「食料需給表」（平成16年度））

注：各国で食料自給率（カロリーベース）について公表されてるものがないことから、FAOのデータを基に農林水産省で試算。

● 農業産出額及び農業従事者数について

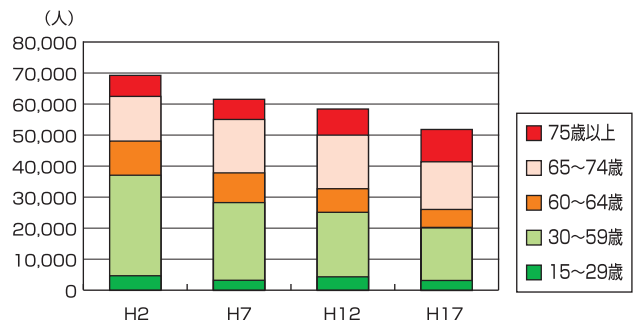
- ・ 本県の農業産出額は、平成7年以降減少傾向にあります。
- ・ 本県の農業就業人口は、平成7年で61,314人、平成12年で58,281人、平成17年で51,218人と、この10年間で10,096人（16.5%）減少しています。
- ・ 農業就業人口に占める65歳以上の割合は、平成7年で38.4%、平成17年で41.5%と高齢化が進んでいます。

農業産出額(米・野菜・果実・花き・畜産)の推移



(資料: 生産農業所得統計(農林水産省))

農業就業人口(販売農家)の推移

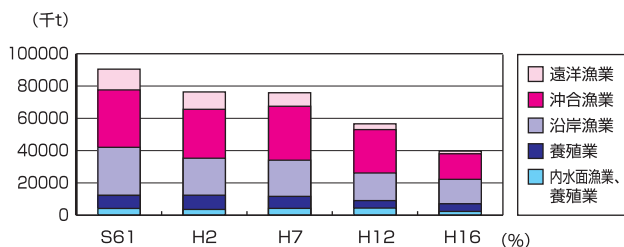


(資料: 農業センサス(農林水産省))

● 漁獲量と漁業従事者数について

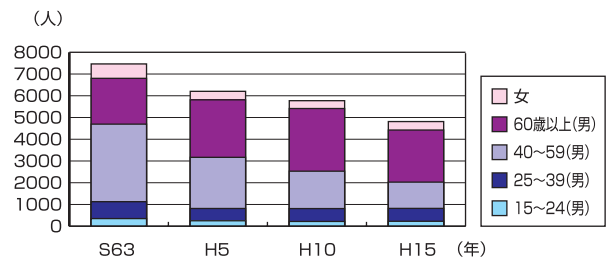
- ・ 本県の漁獲量については、昭和61年をピークに減少傾向にあります。
- ・ 本県の漁業就業者数は、平成5年で6,130人、平成15年で4,668人と、この10年で1,462人(23.8%)減少しています。
- ・ そのうち、60歳以上の男性の割合は51.9%(平成15年)となっています。

漁業・養殖業部門別生産量の推移



(資料: 生産農業所得統計(農林水産省))

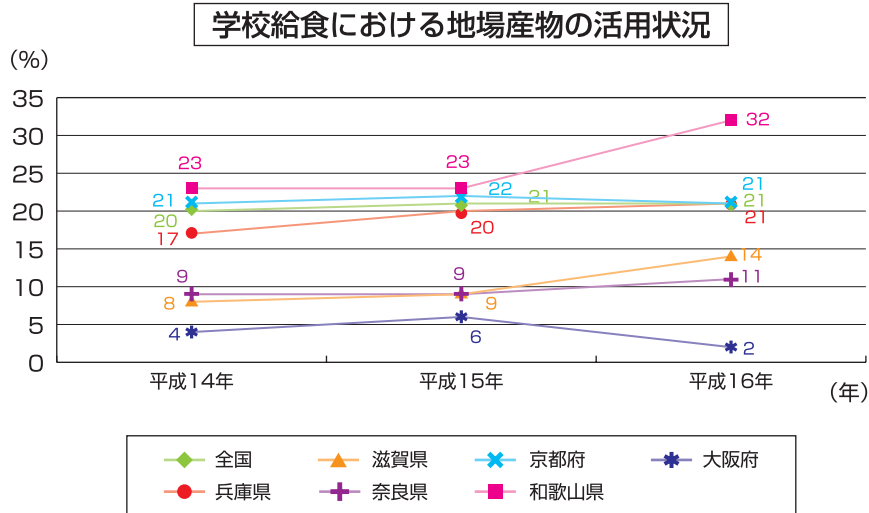
漁業就業者数の推移



(資料: 農業センサス(農林水産省))

●学校給食における地場産物の活用状況

- ・本県の学校給食における地場産物の活用状況については32%となっており、全国平均の21%を上回っており、近畿2府4県のなかでも高い状況となっています。
- ・学校給食における地場産物の使用にあたっての取組では、「生産者と直接契約した農産物の使用」「児童・生徒への食材の紹介」の割合が低くなっています。

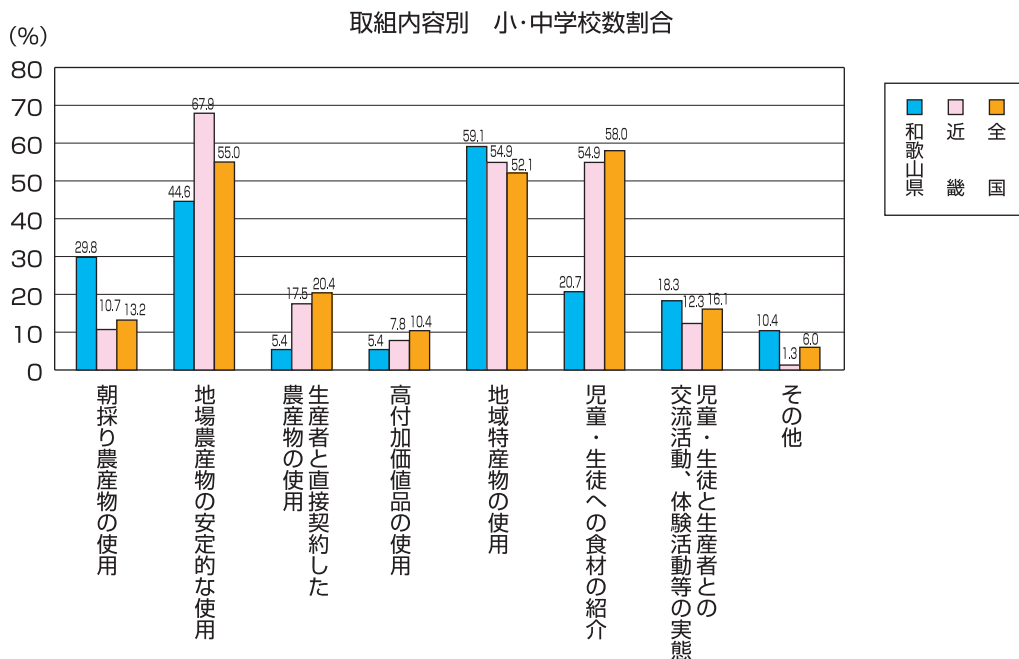


(資料：学校給食における地場産物の活用状況調査)

※5日間の学校給食の献立に使用した食品のうち地場産食品の割合

※地場産物とは、当該都道府県産のもの

学校給食における地場農産物使用にあたっての取組、効果及び課題



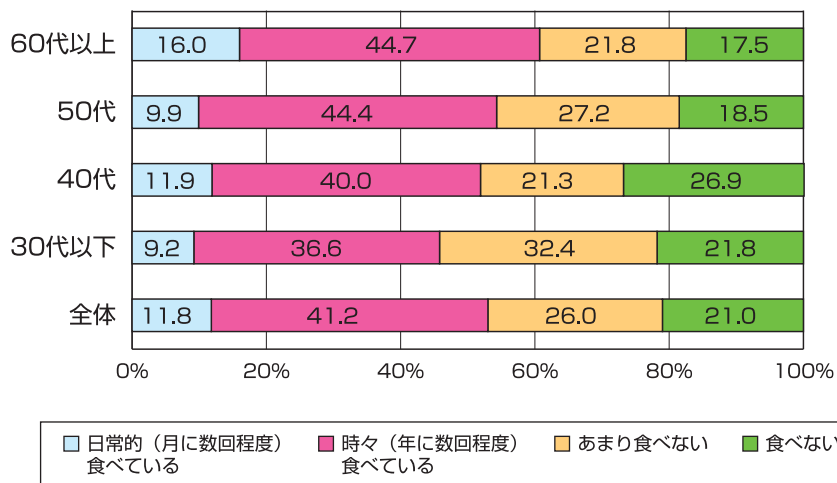
(資料：平成16年度農産物地産地消等実態調査(農林水産省))

(4) 伝統的食文化の伝承

●郷土料理を食べる頻度

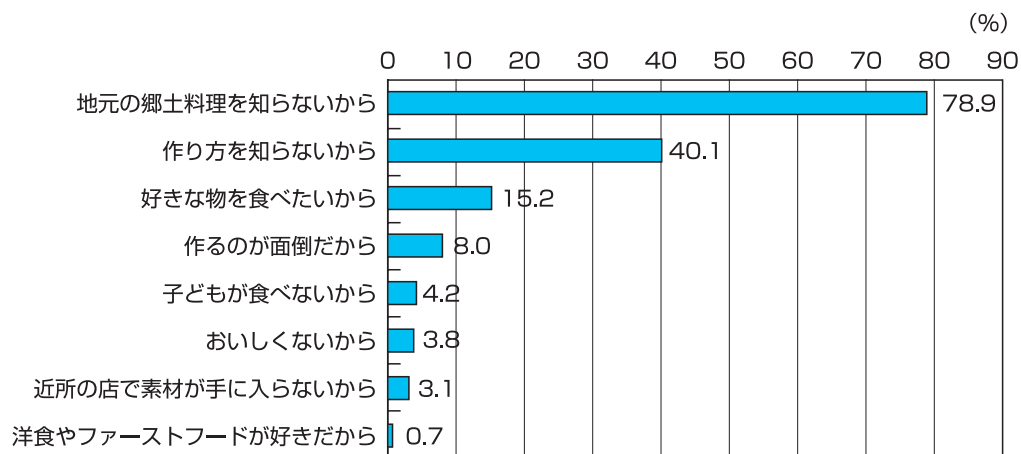
- ・どの年代も「時々（年に数回程度）食べる」が最も多く、年代が低くなるほど、その割合も低くなる傾向となっています。
- ・郷土料理を食べない理由としては、「地元の郷土料理を知らないから」が最も多く、次いで「作り方を知らないから」が多くなっています。

郷土料理を食べる頻度（全国の場合）



（資料：地元農畜水産物への意識や購入に関するアンケート調査（農林漁業金融公庫：H16年2月）・全国調査）

郷土料理を食べない理由（全国の場合）



（資料：地元農畜水産物への意識や購入に関するアンケート調査（農林漁業金融公庫：H16年2月）・全国調査）

(5) 食料の需給

● 食べ残し・食品ロス

- ・ 本県は、単独世帯、特に高齢者の単独世帯の割合が年々増加しています。また、3世代世帯の割合が減少しています。
- ・ 食品ロス率は、単身世帯が最も高く、世帯員数が多くなる程低くなっています。また、3人以上世帯については、高齢者がいる世帯の方が高くなっています。
- ・ 本県の世帯割合は、単独世帯が増加傾向にあるため、食品ロスの量も年々増加しているものと推察されます。
- ・ 食品小売業における食品ロス率は1.1%となっています。食品類別にみると、いも類で8.9%、菓子類で4.5%、野菜類で4.4%など一般的に日持ちのしない食品で比較的高くなっている傾向がみられます。また、調理加工食品のなかでも豆腐類、調理パン類、弁当類が高くなっています。
- ・ 食堂・レストランにおける1食当たりの食べ残しの割合は3.2%となっています。これを主な食品類別にみると、野菜類が4.3%と最も高く、次いで魚介類（3.7%）、卵類（3.5%）となっています。

◆ 単独世帯等の割合（和歌山県）

(%)

	S55	H2	H7	H12	H17
核家族	61	62	62	62	62
単身世帯	15	18	20	22	24
高齢者単独世帯	4	5	7	8	10

(資料：国勢調査（総務省）)

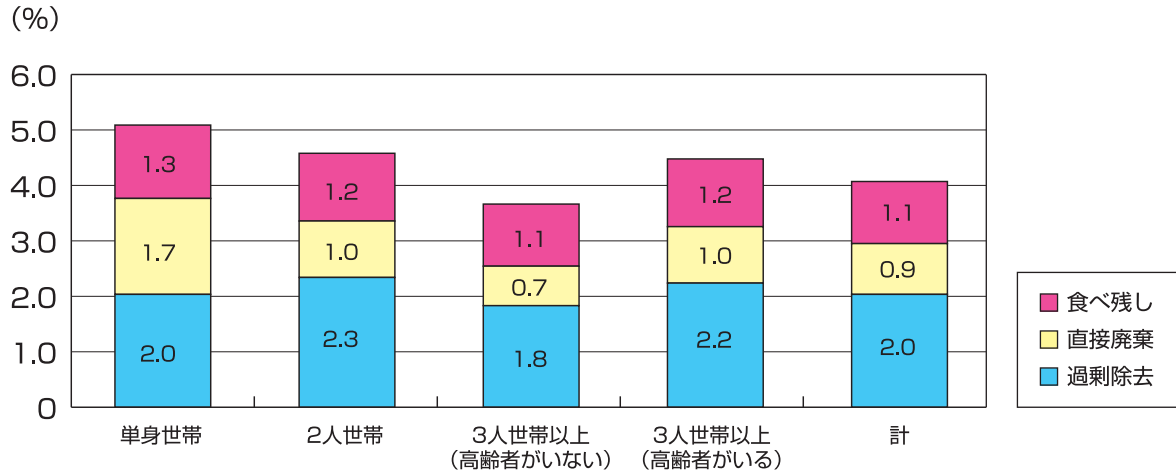
◆ 世帯数の変化（H12、H17年度比較：和歌山県）

(単位：世帯、%)

	H12	H17	前回比較（H17/H12）
核家族世帯	235,355	237,035	101
単身世帯	83,448	90,736	109
3世代世帯	44,196	37,934	86
総世帯数	379,753	383,214	101

(資料：国勢調査（総務省）)

世帯員構成別の食品ロス率（全国の状況）

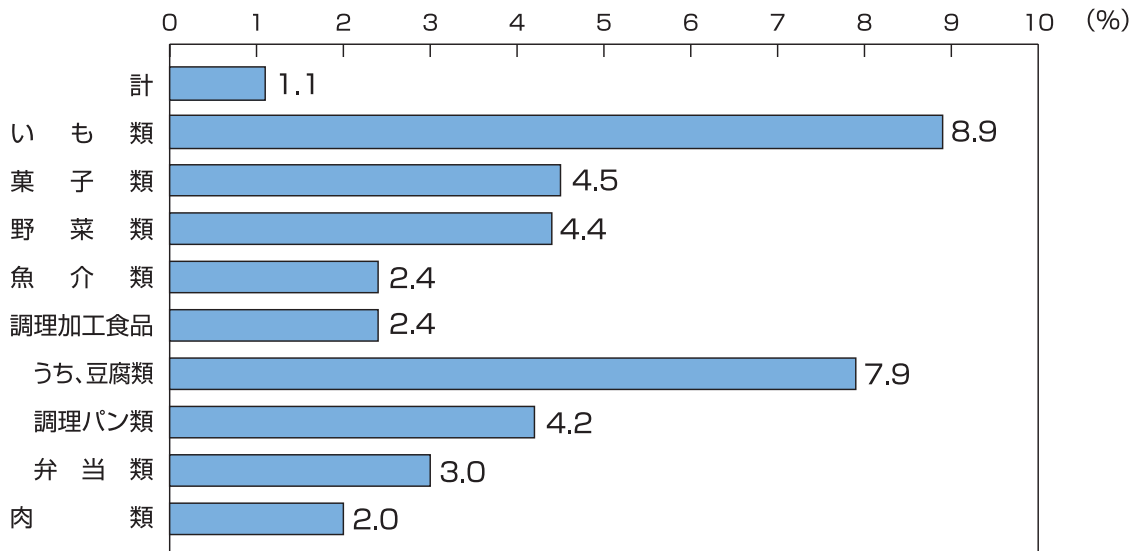


(資料：平成17年度 食品ロス統計調査（世帯調査）)

(注1) 「過剰除去」とは、大根の皮の厚むき、食肉の可食部分と判断される脂肪の除去等をいう。

(注2) 「直接廃棄」とは、賞味期限切れ等で食事において料理・食品として提供されずに廃棄したものをいう。

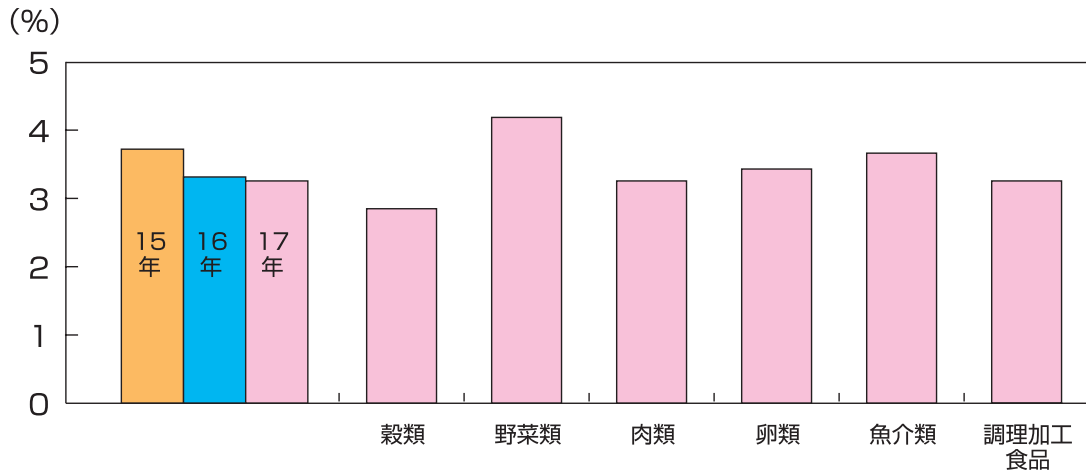
食品小売業における食品ロス率（食品類別）（全国の状況）



(資料：「平成12年度食品ロス統計調査（外食産業調査）」（農林水産省）)

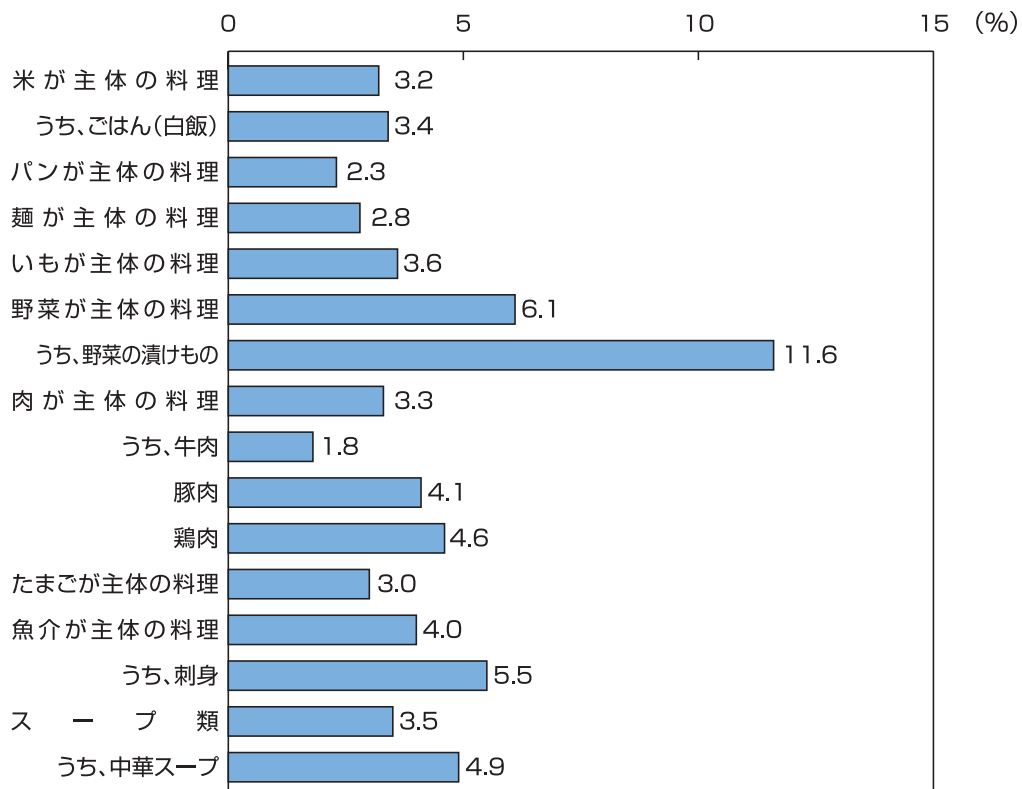
(注1) 食品ロス率 = 商品の廃棄数量 / (商品の在庫増減 + 仕入数量) × 100

昼食時の食堂・レストランにおける食べ残し量の割合（全国の状況）



（資料：平成17年食品ロス統計（外食産業調査）（農林水産省））

昼食時の食堂・レストランにおける主な調理品別の食べ残し量の割合（全国の状況）

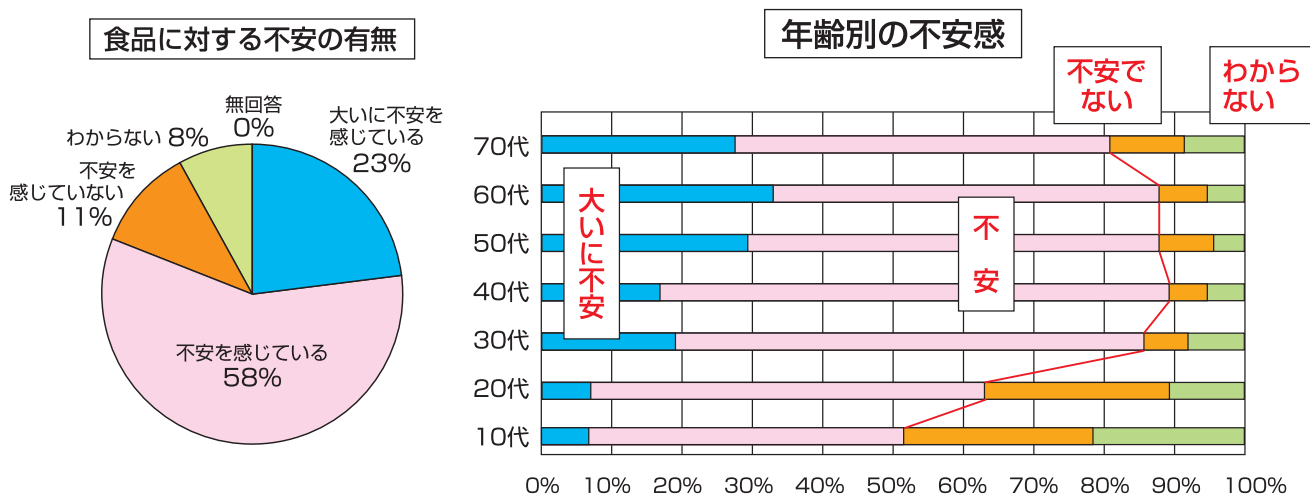


（資料：平成12年度食品ロス統計調査（農林水産省））

(6) 食の安全・安心

●食の安全・安心に関する意識

- ・本県の消費者の81.5%が、食品に対して「大いに不安を感じている」「不安を感じている」と回答しています。
- ・食品に対する不安感を持っている消費者の割合は、年代が上がるごとに高くなっています。



(資料：平成18年度食の安全・安心に係る県民アンケート調査(和歌山県))

●食に対する志向

- ・年齢が高くなるほど、「健康に良い食事をしたい、体に良いものを食べたい」という健康・安全志向が強くなり、若い世代では「美味しいものを食べたい」という美食志向や「食費を節約したい」という経済性志向が強くなっています。

食に対する志向のうち特に強いもの(1番目に強い志向) (全国の状況)

(単位：%)

	健康・安全志向	美食志向	経済性志向	手作り志向	簡便化志向	国産志向	ダイエット志向	高級志向	外食志向
全体	32.0	18.8	15.4	12.5	9.5	7.2	3.7	0.4	0.4
20才~24才	16.4	37.7	18.0	6.6	13.1	3.3	4.9	0.0	0.0
25才~29才	16.5	19.9	30.1	13.0	9.6	6.8	3.4	0.3	0.3
30才~34才	21.6	23.2	24.2	10.3	13.9	3.1	2.6	0.0	1.0
35才~39才	29.1	23.6	21.8	4.2	12.7	5.5	3.0	0.0	0.0
40才~44才	32.4	19.3	13.1	8.1	13.1	6.6	6.9	0.0	0.4
45才~49才	31.5	14.4	11.7	13.5	11.7	9.9	5.4	0.0	1.8
50才~54才	40.3	16.3	9.9	12.9	7.2	7.6	3.8	1.5	0.4
55才~59才	40.6	16.1	9.7	14.2	9.0	6.5	2.6	0.6	0.6
60才以上	41.6	15.3	7.0	17.6	5.4	9.9	2.7	0.6	0.0

※各年代層の最も割合の高い志向に網掛け

(資料：食生活や食育に関するアンケート調査(全国) (H16.8 農林漁業金融公庫))